

県産材製材品の放射線等調査結果について

平成24年3月12日

1 目的

県内の製材工場等において、製材品の放射線量調査を行うとともに、事故発生時に屋外に置かれていた製材品の出荷状況等を調査し、製材品の安全について確認する。

2 調査時期 平成24年1月25日～平成24年3月8日

3 調査事業者数 49事業者

※ 該当事業者93事業者の内、聞き取り調査の結果、事故後製材品を出荷していた49事業者について、調査した。

4 調査方法

(1) 製材品の表面線量調査

県北、相双地区及び県中地区の旧緊急時避難準備区域内において、現在製材品を出荷している製材工場等において、製材品の表面線量調査を行った。

【調査事業者の内訳】

(単位：事業者数)

区分	県北管内	県中管内	相双管内	計
旧緊急時避難準備区域	0	2	9	11
上記以外の区域	33	0	5	38
計	33	2	14	49
測定検体数(本)	212	15	94	321

(2) 製材品の出荷状況確認調査

原発事故当時に各事業所において、屋外で保管していた製材品の出荷状況について聞き取り調査を行い、在庫等の表面線量を調査した。

5 調査結果

(1) 製材品の表面線量調査

現在製材品が出荷されている49工場における表面線量調査の結果、放射性物質による表面線量の最大値は92cpm(0.0031 μ Sv/h)であり、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 松田尚樹教授及び独立行政法人放射線医学総合研究所 鈴木敏和外部被ばく評価室長に確認したところ、92cpmの値は、環境や健康への影響はないと考えられるとの評価が得られた。

※ 独立行政法人産業技術総合研究所の換算表により試算。

【調査結果内訳】

(単位：事業者数)

区分	表面線量 (cpm)					計
	未検出	～40	～60	～80	80～100	
旧緊急時避難準備区域	6	1	1	2	1	11
上記以外の区域	30	7	0	1	0	38
計	36	8	1	3	1	49

最大値：92cpm
最小値：0cpm
平均値：3cpm

(2) 製材品の出荷状況確認調査

原発事故当時屋外で保管していた製材品を現在までに出荷していたのは、6事業者であり、在庫製材品における表面線量は最大で92cpmが確認され、上記調査の最大値を検出した事業者と同一であった。

6 今後の対応

木材産業関係団体が取り組む製材品を出荷する際に行う自主検査について支援するとともに、今回と同様の調査を定期的(3カ月に1回)に行い製材品の安全を確認する。